

## □ 要請番号 (JL02118A02)

募集終了



| 国名    | 職種コード 職種 | 年齢制限 | 活動形態 | 区分 | 派遣期間 | 派遣隊次            |
|-------|----------|------|------|----|------|-----------------|
| カンボジア | G161 体育  |      | 個別   | 新規 | 2年   | ・2018/3 ・2019/1 |

## 【配属機関概要】

## 1) 受入省庁名 (日本語)

教育青年スポーツ省

## 2) 配属機関名 (日本語)

カンボジア・カヌー連盟

## 3) 任地 (カンダール州タクマウ) JICA事務所の所在地 (プノンペン)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (バスで約 0.6 時間)

## 4) 配属機関の規模・事業内容

カンボジア・カヌー連盟は1998年に設立。4人のインストラクターが、25人程のカヌー選手と数百人のトラディショナルボート(伝統的なボートで、30-80名程の多数の漕ぎ手と船頭等から成るチームで操る細長い船)の選手を指導し、東南アジア競技大会など国際大会にも出場している。外国からの援助は殆ど受けていなかったが、短期シニア海外ボランティア(SV)1代、長期SV1代の派遣によって、選抜選手の強化と競技人口の増加、および、コーチ陣の育成が図られつつある。当面の目標として、2023年に自国開催される東南アジア大会(SEA GAME)での表彰台入賞を目指している。

## 【要請概要】

## 1) 要請理由・背景

2015年頃に他の要請で派遣されたSVが、同チームを指導した事が功を奏し、2013年にミャンマーで開催された東南アジア競技大会において、カンボジアのナショナルチームはカヌー部門とトラディショナルボート部門において合計3個の銅メダルを獲得する活躍を見せた。これを受け、同連盟からカヌー指導に専念できる指導者の派遣要請があり、短期SVと長期SVが1名ずつ派遣された。彼らの支援により選手の更なる強化が図られ、東南アジアでは上位4か国に入るまで実力を伸ばし、コーチ陣も選手指導を行うために必要な技量を身に付けつつあるため、同連盟では今後選手に対する指導の更なる強化を計画している。そしてJICAに対して競技経験豊富、かつ、選手の年齢層に近い日本の若者による支援を行い、技術だけでなく精神面での鍛錬を図るための支援を求め、協力隊員を要請することとなった。

## 2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

- カヌーおよびトラディショナルボートのナショナルチーム選手の練習指導を行う。
- カヌーおよびトラディショナルボートのナショナルチーム選手強化プログラムを実施、改良する。
- 連盟のコーチに対し、可能な範囲で指導のノウハウに関するアドバイスを行う。

## 3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

競技艇(カヌー・カヤック等)・ストップウォッチ・メガホン等

## 4) 配属先同僚及び活動対象者

連盟代表(50歳代、男性)  
連盟副代表兼選手強化担当(40歳代、男性)  
選手25名程度(10代半ばから20代後半、全員男性)

## 5) 活動使用言語

クメール語

## 6) 生活使用言語

クメール語

## 7) 選考指定言語

## 【資格条件等】

[免許]：（ ）

[学歴]：（ ） 備考：

[性別]：（ ） 備考：

[経験]：（競技経験）5年以上 備考：実技指導が中心となるため

### 任地での乗物利用の必要性

不要

## 【地域概況】

[気候]：（熱帯モンスーン気候） 気温：（22～38℃位） [電気]：（不安定）

[通信]：（インターネット可 電話可）

[水道]：（安定）

## 【特記事項】